

年が明けて1カ月。09年のさまざまな統計が公表されています。個人の金融資産に関して言えば、定期預金への資金シフトが目立つ年でした。おそらく市場が大荒れとなった08年の手痛い教訓から、リスクを極端に回避する「羹（あつもの）に懲りて膾（なます）を吹く」傾向が若干あったのでしよう。でも、いくら安全でも定期預金より

リスク投資考

浪花おふくろ投信代表取締役 石津 史子



換金性の劣る個人向け国債は金利が下がって魅力が薄れたのか販売額は減っています。

海外投資の活発化にみられるように積極的になり、スクを取り戻す動きも広がりました。特に高金利と株価上昇への期待を背景に、経済成長率やインフレ率が総じて高い新興国の債券や株式への投資は投資信託などを通じて大きく伸びました。ただ、リスク商品への

前向きな姿勢が持続的なものなのかは、まだ分かりません。実際、日本株投資において、08年の株価

下落時には個人の積極的な買いが入りましたが、早くも利益確定に動いたようで、売却額が買い付け額を上回っています。新興国への投資にしても、今の高金利と、ここ1年ほどの株価の動きのよさに引き付けられているだけなら、市場の動き次第で回収へと流れが一変する可能性もあります。こうした個人資金の動きは、よく言えばとても

機敏ですが、収益機会を探し右往左往しているようにも見えます。市況の上下変動を利用し収益を確保しようとする投資方法は、予想外の事態で急変する市場の動きを先読みできることが前提です。から、一歩遅れれば「もぐらたたき」さながらの後追いと悪循環に陥る危険を伴います。

リスクを取り過ぎず、しかしリスクを恐れ過ぎず……という、ちょうどいい投資が10年に広がっていくことを願ってやみません。